



くらしん
くらしん

Report '10

平成22年9月期 ミニディスクロージャー誌

The Kurashin public information journal



この街と生きていく。もっと大きくあなたの未来。

倉吉信用金庫
KURAYOSHI SHINKIN BANK



KURASHIN
KURAYOSHI SHINKIN BANK

この街と生きていく。もっと大きくあなたの未来。

企業理念・経営方針

■企業理念■

◇基本理念

地元と共に生きる

◇経営理念

1. 信 頼

倉吉信用金庫は、法令やルールを遵守すると共に社会的規範を全うするため、法令等遵守を経営の最優先課題と位置づけ、誠実かつ公正な業務運営を行います。

1. 変 革

倉吉信用金庫は、時代の変化や、地域の要請を的確に捉え、迅速に対応するため、積極かつ堅実な経営を行います。

1. 地域貢献

倉吉信用金庫は、地域のすべての企業、勤労者、家庭の繁栄と幸せをもたらすため貢献します。

■経営方針■

◇経営方針

倉吉信用金庫の創業の原点である相互扶助の精神を大切に、「地域の為に貢献する」という使命感を再認識し、今こそ地域社会の再生と活性化を目指し「使命共同体」としてその中核となって、中小零細な地元企業の支援、地域住民の豊かな生活の向上、活力ある地域社会の実現に向けて貢献していきます。そのために強固な経営基盤をさらに確固たるものにし、“小さくても最良のくらしん”を実現します。

◇行動基準

1. 礼 儀

我々は、礼儀を基本とした誠意ある行動で、地域からの信頼を高めます。

2. 元 気

我々は、健康管理を怠らず、明るく、気みなぎる行動で、地域からの共感を受けます。

3. 向 上

我々は、自己啓発を心掛け、仕事に創意を生かし、顧客の満足度を高め地域に奉仕します。



—— 役員一覧 ——

理 事 長 (代表理事)	谷 岡 忠 範	理 事 (非常勤)	福 井 壽 幸
常務理事 (代表理事)	笠 見 和 則	理 事 (非常勤)	山 本 幸 隆
常勤理事	小 椋 栄	理 事 (非常勤)	田 中 希 弘
常勤理事	足 羽 弘 志	理 事 (非常勤)	藤 田 明
		理 事 (非常勤)	谷 口 宗 弘
常勤監事	綱 本 栄	員外監事 (非常勤)	松 井 幹 雄
		監 事 (非常勤)	藤 原 和 男

(平成22年9月30日現在)

倉吉信用金庫と地域社会

—この街と生きていく—

当金庫の地域経済活性化への取組みについて

当金庫は、鳥取県の中部地域を主な営業エリアとして、地元の中小企業や住民が会員となって、お互いに助け合い、発展していくことを共通の理念として運営されている相互扶助型の金融機関です。

地元のお客様からお預りした大切な資金（預金積金）は、地元で資金を必要としているお客様に融資を行って、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として、地元の中小企業者や住民との強い絆とネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めております。また、金融機能の提供にとどまらず、文化、環境、教育といった面も視野に入れ、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでおります。

（計数は平成22年9月末日現在）

●預金について

（地域からの資金調達の状況）

預金積金総額 71,872百万円
うち個人預金 58,626百万円

当金庫では、地域のお客様の着実な資金づくりのお手伝いをさせていただくため、新商品の開発やサービスの一層の充実に向けて努力してまいります。

当金庫では、特に定期積金を通じて、それぞれのお客様のライフワークの実現に向けた蓄財のお手伝いをさせていただいています。

（尚、当金庫の取扱っている商品は、平成22年発行のディスクロージャー誌の28ページをご覧ください。）

●余裕資金の運用について

余裕資金運用残高 34,653百万円
うち預け金 23,612百万円
うち有価証券 11,041百万円

余裕資金の運用については、国債や政府保証債、地方債等を中心とした格付の高い債券や信金中金への預け金などで運用し、リスク回避に努め、インカム・ゲイン中心の運用に努めています。

（有価証券の保有残高内訳については、平成22年発行のディスクロージャー誌の49ページをご覧ください。）

地域のお客様
（会員）

会員19,254名
出資総額632百万円

預金積金・出資金

貸出金・支援活動・サービス

倉吉信用金庫

店舗数13店・常勤役職員107名

平成22年9月末
業務純益……107百万円
当期純利益…135百万円
自己資本比率…10.27%

●貸出金について

（地域への資金供給の状況）

貸出金残高 40,623百万円

「地元で集めた預金は、すべて地元に戻元します」をモットーに、地域経済の活性化に資するため、円滑な資金供給に努め、地域の皆様を金融面からご支援しています。

（取扱商品は平成22年発行のディスクロージャー誌の29～30ページをご覧ください。）

事業者	23,104百万円
個人	12,993百万円
地公体	4,525百万円
設備資金	14,502百万円
運転資金	26,120百万円
住宅ローン	7,704百万円
消費者ローン	2,127百万円
預貸率	56.52%

●お客様への支援活動・サービスについて

景気が低迷している現在、業績低下に苦慮しているお客様に対し、本部組織内に資産管理部企業再生課を設置し、業務内容に踏み込んだ改善策・経営改善計画書のアドバイス等、金融面だけでなく幅広く経営の立て直しのご相談に応える他、創業・新規事業に関する相談も営業店窓口を通し積極的に応じ、生きた支援に心がけています。

また、経営者の異業種交流、親睦、経営に関する勉強の場として、各営業店に取引先経営者で構成する外郭団体を設置し、研修会や経済・文化講演会等を行い、お客様相互の発展と繁栄をお手伝いしております。その他法律・税務・年金等に関するご相談は、外部の有資格者による相談日を毎月定期的に設け、あらゆるお客様ニーズに応えられる体制を整えております。

●顧客ネットワークへの取組み（文化的・社会的貢献活動について）

当金庫では、地域金融機関として「地域と共に生きる」をテーマに、金融サービスの提供を通じ、地元企業の発展や、地域にお住まいの皆様の生活の向上、豊かで活力ある地域社会の実現を願い、地域のイベント活動や社会福祉活動に参加しています。

また、当金庫の主催によるお客様を対象とした経済講演会や囲碁大会、健康ウォークを開催し、地域で事業を営むお取引先で組織する外郭団体の組織化にも力を注いでいます。



くらしんの経営内容 Q&A

平成22年度〈9月期〉の業績

Q-1

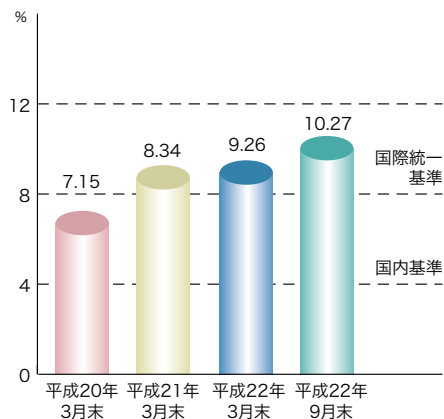
金融機関の健全性をあらわす自己資本比率は
どうなっていますか？

A

金融機関の健全性を示す自己資本比率は、平成22年9月期において10.27%となりました。健全性の目安である国内基準4%、国際統一基準8%を上回っており、今後も年度ごとに掲げる事業計画に基づいた業務推進を通じ、そこから得られる利益による資本の積上げを第一義的な施策として考え、地域の皆様から一層信頼される金融機関となるよう、さらに健全な経営体質づくりに努めてまいります。

注) 9月末は、仮決算のため「信用金庫半期情報開示に関する基本的考え方」に基づく仮算定値です。

自己資本比率



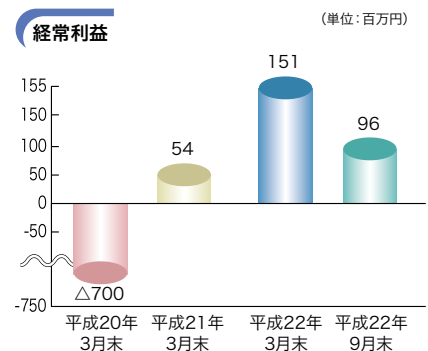
Q-2

中間決算(平成22年9月末期)
の収益・利益の状況はどうなっ
ていますか？

A

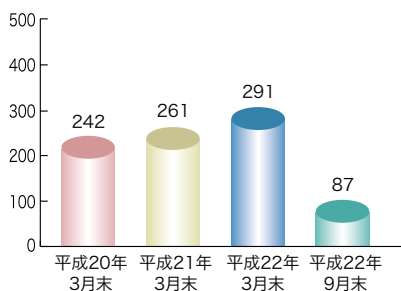
地域の景況感は引き続き厳しい状況にあり、良質で低利な資金供給に取り組んでおりますが、市場金利低下により貸出金利息収入が減少する中、経費の節減・引当金の減少等に取り組む、業務収益の確保に努めた結果、業務純益107百万円・経常利益96百万円となり、当期純利益は135百万円となりました。今後も地域貢献するために適切な利益の確保に努めてまいります。

経常利益



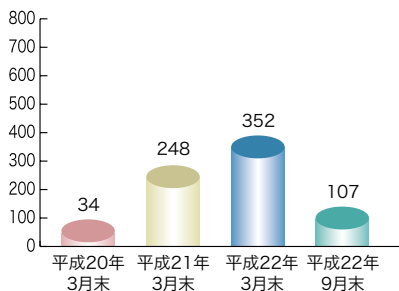
コア業務純益

(単位: 百万円)



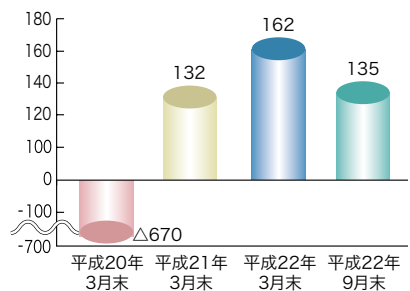
業務純益

(単位: 百万円)



当期純利益

(単位: 百万円)



Q-3

預金と貸出金の状況はどうでしたか？

A

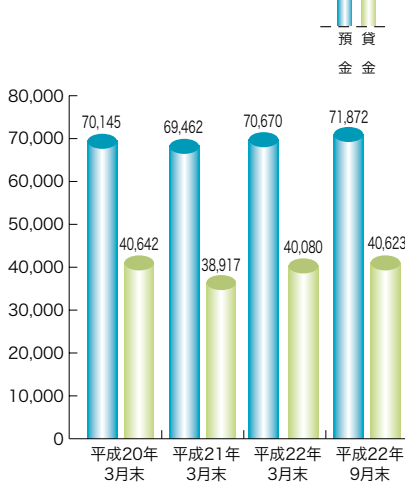
当金庫は今年度も、相互扶助による地域との共生「創業の精神」を大切にしながら「小さくても最良のくらしん」を実現するため、役職員一丸となって取り組んでいます。

預金積金残高は、個人・法人預金とも定期性預金が堅調に推移し、4月から9月の半年間で1,202百万円増加(1.70%増)の、71,872百万円となりました。

また、貸出金においては、厳しい経済状況の中で努力している企業の支援や、住民の皆様への生活のための、資金のご融資に取り組み、貸出金残高は、この半年間で543百万円増加(1.35%増)し、40,623百万円となりました。

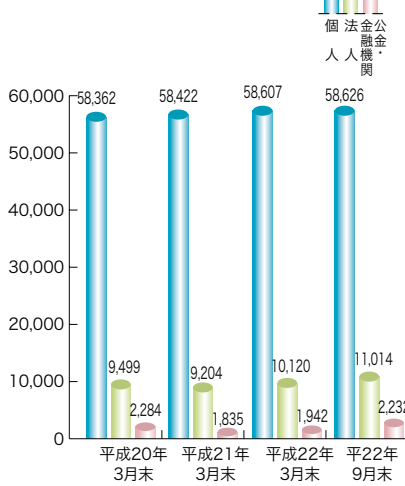
預金積金・貸出金

(単位:百万円)



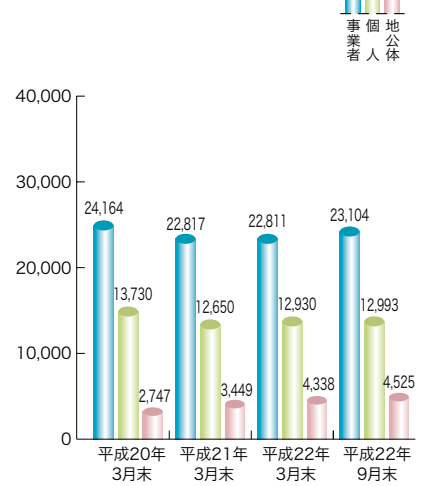
個人・法人預金

(単位:百万円)



事業者・個人・地公体貸出金

(単位:百万円)



Q-4

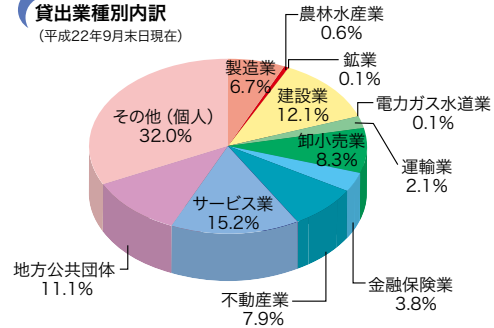
どんな先に貸出を行っているのですか？

A

当金庫は、「地元で集めた預金はすべて地元へ還元します」という姿勢のもと、出資者である会員の皆様への融資を基本に「地元中小企業の健全な発展」、「豊かな国民生活への実現」、「地域社会への奉仕」を実現するため地元金融機関として、多くの皆様にご利用いただくため貸出を通じてあらゆる相談に応じ、皆様に合致した商品の提供に心がけ、積極的に取り組んでいます。

貸出業種別内訳

(平成22年9月末日現在)



Q-5

有価証券の時価状況は？

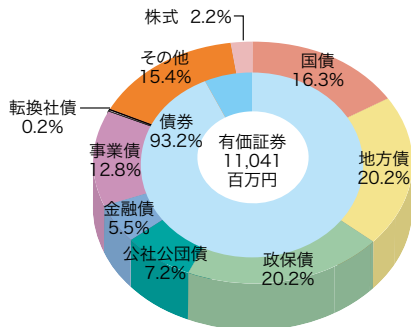
A

当金庫の有価証券運用のスタンスは、安全性を最重要視し、利息配当金収入中心の運用に心がけています。そのため運用は主に債券で行っております。

平成22年9月末日現在の有価証券の内、債券で93.2%を占め、債券の内、公共債68.5%と安全性をより重視しております。

有価証券の保有割合

(平成22年9月末日現在)



有価証券の時価状況

(平成22年9月末日現在)

満期保有目的の債券

(単位:百万円)

	種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	100	104	3
	地方債	-	-	-
	短期社債	-	-	-
	社債	974	1,019	45
	その他	-	-	-
	小計	1,074	1,124	49
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	-	-	-
	地方債	87	80	△7
	短期社債	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	1,200	1,004	△195
小計	1,287	1,084	△202	
合計	2,362	2,208	△153	

その他有価証券

(単位:百万円)

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	61	55	6
	債券	7,110	6,934	176
	国債	1,696	1,649	47
	地方債	2,145	2,099	46
	短期社債	-	-	-
社債	3,268	3,185	82	
その他	-	-	-	
小計	7,172	6,989	182	
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	143	178	△34
	債券	821	822	△0
	国債	-	-	-
	地方債	-	-	-
	短期社債	-	-	-
社債	821	822	△0	
その他	487	631	△143	
小計	1,452	1,632	△179	
合計	8,625	8,622	3	

時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券(単位:百万円)

	貸借対照表計上額
非上場株式	37
組合出資金	15

Q-6

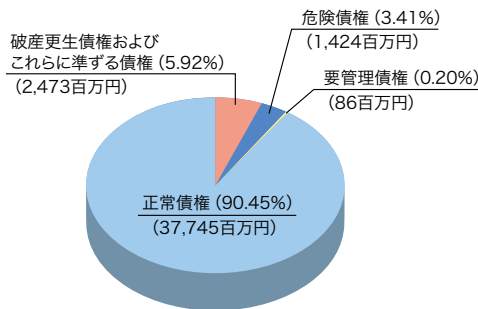
資産内容はどうか？

A

金融再生法上の不良債権の合計は、3,984百万円で対年度末比（平成22年3月末）169百万円増加、同法による不良債権比率は、9.54%で対年度末比（平成22年3月末）0.30ポイント増加となりました。

また、金融再生法による開示債権額は、貸借対照表の貸出金およびその他資産の中の未収利息、仮払金および債務保証見返の各勘定に区分したもので、下記の問題となる債権に対して、貸倒引当金および担保・保証等で95.83%保全されています。

開示債権の構成比（平成22年9月末日現在）



金融再生法に基づく開示債権と保全状況

(平成22年9月末日現在)

(単位:百万円)

	残高
破産更生債権およびこれらに準ずる債権	2,473
危険債権	1,424
要管理債権	86
小計……(A)	3,984
正常債権	37,745
合計	41,729

(単位:百万円)

保全額……(B)	3,818
担保・保証等	2,524
貸倒引当金	1,293
保全率(B)/(A)	95.83%

- 注) 1.「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
 2.「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
 3.「要管理債権」とは、「3カ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金をいいます。
 4.「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。
 5.貸倒引当金は個別貸倒引当金及び要管理債権に対して計上している一般貸倒引当金の合計額です。

自己資本の構成に関する事項（平成22年9月末日現在）

(単位:百万円)

項目	21年9月末	22年9月末
(自己資本)		
出資金	624	632
非累積的永久優先出資	—	—
優先出資申込証拠金	—	—
資本準備金	—	—
その他資本剰余金	—	—
利益準備金	622	631
特別積立金	1,062	1,192
次期繰越金	239	187
その他	—	—
処分未済持分(△)	—	—
自己優先出資(△)	—	—
自己優先出資申込証拠金	—	—
その他有価証券の評価差損(△)	—	—
営業権相当額(△)	—	—
のれん相当額(△)	—	—
企業結合により計上される無形固定資産相当額(△)	—	—
証券化取引により増加した自己資本に相当する額(△)	—	—
内部格付手法採用金庫において、期待損失額が適格引当金を上回る額の50%相当額(△)	—	—
基本的項目(A)	2,548	2,643
土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額	113	113
一般貸倒引当金	205	106
内部格付手法採用金庫において、適格引当金が期待損失額を上回る額	—	—
負債性資本調達手段等	—	—
負債性資本調達手段	—	—
期限付劣後債務及び期限付優先出資	—	—
補完的項目不算入額(△)	10	—
補完的項目(B)	308	220
自己資本総額[(A)+(B)](C)	2,856	2,864

項目	21年9月末	22年9月末
他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額	258	258
負債性資本調達手段及びこれに準ずるもの	—	—
期限付劣後債務及び期限付優先出資並びにこれらに準ずるもの	100	100
非同時決済取引に係る控除額及び信用リスク削減手法として用いている保証又はクレジット・デリバティブの免責額に係る控除額	—	—
内部格付手法採用金庫において、期待損失額が適格引当金を上回る額の50%相当額	—	—
PD/LGD方式の適用対象となる株式等エクスポージャーの期待損失額	—	—
基本的項目からの控除分を除く、自己資本控除とされる証券化エクスポージャー及び信用補充機能を持つI/Oストリップ(告示第247条を準用する場合を含む)	—	—
控除項目不算入額(△)	258	258
控除項目計(D)	—	—
自己資本額[(C)-(D)](E)	2,856	2,864
(リスク・アセット等)		
資産(オン・バランス項目)	27,826	24,689
オフ・バランス取引等項目	873	728
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	2,527	2,461
旧所要自己資本の額に告示に定める率を乗じて得た額が新所要自己資本の額を上回る額に25.0を乗じて得た額	—	—
リスク・アセット等計(F)	31,228	27,880
Tier1比率(A/F)	8.15%	9.48%
自己資本比率(E/F)	9.14%	10.27%

(注)「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するための基準（平成18年金融庁告示第21号）」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。
 平成22年9月期については、自己資本比率規制の一部を弾力化する特例（平成20年金融庁告示第79号）に基づき、「その他有価証券の評価差損」を基本的項目から控除しておりません。なお、「その他有価証券の評価差損」の額（0百万円）を控除して計算した場合には、自己資本比率は10.27%となります。

地域貢献活動

当金庫では、地域金融機関として、「地域と共に生きる」をテーマに金融サービスの提供を通じ、地元企業の発展や、地域にお住まいの皆様の生活の向上、豊かで活力ある地域社会の実現を願い、地域のイベント活動や社会福祉活動に参加しています。

■6月15日「信用金庫の日」

毎年、6月15日は「信用金庫の日」として全国の信用金庫で様々なイベントが行われておりますが、当金庫では地域貢献活動として、全店一斉による周辺道路や公共施設のクリーン活動を実施しました。また、各営業店では、お客さまへの日ごろの感謝を込めて、各種イベントを実施したり、お客さまの作品展を行ったりしました。



ミニゲームを実施



焼きそばコーナー



全店一斉のクリーン活動

■イベントの提供

プロ棋士を招いた年4回の囲碁大会をはじめ、ゴルフコンペ、健康ウォーク等のイベントを定期的に提供し、大勢の方々に参加いただいています。



囲碁大会



くらしん健康ウォーク

■地域のイベントへの参加

くらしん打吹まつりでは、職員の「みつぼし踊り」参加をはじめ、地域の方々と共に祭りを盛り上げています。また、各地域で行われる行事には支店単位でも積極的に参加しています。



みつぼし踊り参加

■外郭団体の活動

各支店には外郭団体を組織しており、旅行・網引きや、年金友の会のグラウンドゴルフ大会等、様々な行事で会員相互の親睦を図ると同時に、講演会・研修会等の会員に役立つ活動を行っています。また、ヤングコアでは、歳末助け合い募金や清掃活動を行っています。



地引網



いつも、ありがとう

お買い物・発注は、地元商店・地元業者で

中部は本気だ

地賛地商



KURASHIN
KURAYOSHI SHINKIN BANK

— 店舗一覧 —

本 部	〒682-0806	倉吉市昭和町1丁目60 倉吉郵便局私書箱13号	TEL 0858 (22) 1111	FAX 0858 (22) 5607
本店営業部	〒682-0806	倉吉市昭和町1丁目60	TEL 0858 (22) 6108	FAX 0858 (22) 6110
うつぶき支店	〒682-0886	倉吉市大正町1075-4	TEL 0858 (22) 4154	FAX 0858 (22) 4157
浦安支店	〒689-2352	東伯郡琴浦町浦安213-2 東伯郵便局私書箱4号	TEL 0858 (52) 2351	FAX 0858 (52) 2352
由良支店	〒689-2221	東伯郡北栄町由良宿551-4	TEL 0858 (37) 3711	FAX 0858 (37) 3712
東郷支店	〒689-0714	東伯郡湯梨浜町龍島536-3	TEL 0858 (32) 0631	FAX 0858 (32) 0632
倉吉駅前支店	〒682-0021	倉吉市上井町2丁目3-9	TEL 0858 (26) 2951	FAX 0858 (26) 2953
羽合支店	〒682-0721	東伯郡湯梨浜町田後340-3	TEL 0858 (35) 2641	FAX 0858 (35) 2642
鳥取支店	〒680-0845	鳥取市富安1丁目221-1	TEL 0857 (26) 3241	FAX 0857 (26) 3243
西倉吉支店	〒682-0851	倉吉市西倉吉町20-15	TEL 0858 (28) 3111	FAX 0858 (28) 3112
関金出張所	〒682-0411	倉吉市関金町関金宿247-1	TEL 0858 (45) 3121	FAX 0858 (45) 3122
西支店	〒682-0871	倉吉市旭田町11	TEL 0858 (22) 1313	FAX 0858 (22) 1314
三朝支店	〒682-0121	東伯郡三朝町大瀬1036-4	TEL 0858 (43) 2111	FAX 0858 (43) 2112
真庭支店	〒717-0613	岡山県真庭市蒜山下徳山43-3	TEL 0867 (66) 4368	FAX 0867 (66) 4374